

2021年3月期 通期見通し及び中間決算概要（連結）

1. 2020年度 通期見通し及び中間決算の主なポイント

（1）2020年度通期見通し

○今回の中間決算を踏まえた通期見通しについては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、95億円の当期純損失が発生する見込みです。

（2）2020年度中間決算

（総括）

○当中間決算は、前年同期と比較し『減収・減益』となっています。

- ・営業収益は、3,464億円で835億円の減収
- ・営業利益は、160億円で76億円の減益
- ・中間純利益は、72億円で91億円の減益

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅な減収・減益となっています。

（高速道路事業）

○道路資産賃借料

- ・計画料金収入に対して料金収入の実績が一定割合を超えて変動した際には、機構・会社間の協定に基づき、会社から機構に支払う道路資産賃借料のうち一定割合を超える部分について増減算を行うこととなっています。
- ・今回の中間決算における道路資産賃借料については、新型コロナウイルス感染症の影響による料金収入の減収に伴い、協定に基づく上期計画額より、564億円減額（昨年度は228億円増額）となっています。

○管理費用等

- ・高速道路事業においては、料金収入の減収による影響が一部あったものの、管理費用の上期特性[※]による影響が相対的に大きかったため、営業利益が発生しました。
- ※上期の費用は雪氷対策や集中工事等の影響を受ける下期に比較して少なくなる傾向があります。

（関連事業）

○休憩所事業

- ・休憩所事業においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、賃料収入などが減少となった結果、大幅な減益となっています。

2. 業績の概況

(単位：億円)

	2020年度 (第16期) 通期見通し※2	2020年度 上期実績 A	2019年度 上期実績 B	増減	
				金額 A-B	% A/B*100
営業収益	11,679	3,464	4,299	▲835	80.6
高速道路事業	10,906	3,190	3,981	▲790	80.1
(料金収入)	5,714	2,733	3,583	▲849	76.3
(道路資産完成高)	5,183	451	392	58	114.9
(その他)	8	5	5	▲0	97.9
関連事業	773	274	318	▲44	86.2
(休憩所事業)	209	96	172	▲75	56.3
(その他事業)	563	177	146	31	121.3
営業費用	11,740	3,303	4,062	▲758	81.3
高速道路事業	10,918	3,004	3,780	▲775	79.5
(道路資産賃借料)	3,763	1,706	2,523	▲817	67.6
(道路資産完成原価)	5,183	451	392	58	114.9
(管理費用等)	1,971	846	863	▲17	98.0
関連事業	821	299	281	17	106.3
(休憩所事業)	255	122	138	▲16	88.1
(その他事業)	565	177	142	34	124.1
営業利益(▲損失)	▲61	160	237	▲76	67.6
高速道路事業(▲損失)	▲12	185	200	▲15	92.5
関連事業(▲損失)	▲48	▲25	36	▲61	—
経常利益(▲損失)	▲45	169	242	▲72	69.9
中間(当期)純利益(▲損失)※1	▲95	72	163	▲91	44.1

実績金額は、億円未満の端数を切り捨てて表示しております。

※1 中間(当期)純利益(▲損失)は、「親会社株主に帰属する中間(当期)純利益(▲損失)」を記載しております。

※2 2020年度通期見通しは、新型コロナウイルス感染症の影響などを踏まえ、一定の前提に基づいておりますが、十分に不確実な要素を含んでおります。さまざまな要素により、上記通期見通しと実績が異なる可能性があることをご承知おきください。

(注) 当社グループは、経営組織の形態と事業の特性に基づいて、事業を以下のように区分しております。

事業		業務内容
高速道路事業	建設事業	高速道路の新設、改築
	保全・サービス事業	高速道路の維持、修繕、災害復旧その他の管理
関連事業	休憩所事業	高速道路内におけるサービスエリアの建設、管理及び運営
	その他(関連)事業	受託事業、トラックターミナル事業、占用施設活用事業、物販事業、旅行事業、海外事業、不動産開発事業等

3. トピックス

(1) 高速道路事業

(実施した施策)

○ネットワークの整備

2021年3月期の上期では、ネットワークを形成する新規供用はございません。

なお、2021年3月期の上期で以下の改築事業が完成しております。

・新東名高速道路（御殿場 JCT～浜松いなさ JCT 間）6車線化事業

新静岡 IC ～ 藤枝岡部 IC 間（上り線） 19 km

長泉沼津 IC ～ 藤枝岡部 IC 間（下り線） 72 km

※IC…インターチェンジ、JCT…ジャンクション

(上期業績)

○営業収益は、3,190 億円（前年同期比 790 億円減）となりました。

・料金収入は、2,733 億円（同 849 億円減）でした。これは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるものです。

また、1日あたりの通行台数は162万台（同 20.2%減）でした。

・道路資産完成高は、451 億円（同 58 億円増）でした。これは、新東名高速道路6車線化事業の一部完成によるものです。

○営業費用は、3,004 億円（同 775 億円減）となりました。

・道路資産賃借料は、1,706 億円（同 817 億円減）でした。これは、機構と会社が締結する協定の定めによる変動賃借料制度（料金収入の増減に関する措置）によるものです。

・道路資産完成原価は、451 億円（同 58 億円増）でした。（要因は道路資産完成高と同様）

・管理費用等は、846 億円（同 17 億円減）となりました。これは、点検や維持補修など着実に業務が行われた一方、交通量の減少などにより、マイレージポイントのご利用やクレジットカード手数料が減少したことによるものです。

○上記の結果、営業利益 185 億円（同 15 億円減）となりました。

(2) 関連事業

(実施した施策)

○魅力あるサービスエリアづくり

・各サービスエリア・パーキングエリアでは、国が発表した新しい生活様式に対応した新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、お客さまが安全・安心に店舗をご利用いただけるよう、店舗の定期的な消毒やレジ待ち位置の明示、客席の間隔確保などを行いました。

・東名高速道路 海老名サービスエリア（下り線）は、新しい生活様式に対応した取り組みを行ったうえで、「EXPASA 海老名（下り線）」としてランドオープンしました。商業施設の東側・西側双方にショッピングコーナーを配置したほか、フードコートでは店舗数を増やすとともに、座席数を増やすことで利便性を向上させました。

○その他（関連）事業の推進

・社宅跡地を活用した宅地分譲事業や、高速道路の周遊と観光施設や宿泊施設の利用券をセットにしたドライブプランの拡充などに取り組みました。このほか、駐車場など高速道路以外の施設で、ETC などの ITS 技術が利用可能となるサービス（ETC 多目的利用サービス）に関する情報処理事業を開始しました。今後、早期に ETC 多目的利用サービスをお客さまにお届けできるように、関係機関と準備してまいります。

(上期業績)

○営業収益は、274 億円（前年同期比 44 億円減）となりました。

これは、新型コロナウイルス感染症の影響により、休憩所事業収入などが減収となったことによるものです。

○営業費用は、299 億円（同 17 億円増）となりました。

これは、国・地方公共団体等から受託した工事出来高の増加によるものです。

○上記の結果、営業損失 25 億円（同 61 億円減）となりました。

以上